

“是不是 NP / VP ?” 疑問文の意味的特徴及び語用的機能 ——モダリティ及び類型論の視点から——

曹 泰和*

1. はじめに

1.1 “是不是 + NP” の問題提起

従来の研究では、“是不是” 疑問文の帰属についての議論がされてきた。すなわち“是不是” 疑問文を「正反疑問文」と同一視すべきかどうかという問題である。陶煉 1998 は、“是不是” 疑問文について、二つのタイプがあると指摘している。一つは下記の A タイプであり、もう一つは下記の B タイプである。そして、共に“是不是” という形式だが、A は“正反疑問句” とし、B タイプは“正反疑問句” から分離すべきだと主張した。

A：你是不是英语老师？

B：你是不是去过北京？

丁力 1999 は、陶煉の分離説を基本的に支持する考えを示した。また、邵敬敏・朱彦 2002 も、“是不是” 疑問文を“是不是 + NP” と“是不是 + VP” に分けた。そして、それぞれの構造の意味的特徴については次のように述べている。

“是不是 + NP?” 跟其他正反问句的语义倾向一致的，即无明显倾向。”

“是不是 + VP” 的用例中有肯定性倾向的达到 92%，比例非常高。”

邵敬敏・朱彦 2002 は、“是不是 + NP?” 疑問文について、“看不出倾向” “有肯定性倾向” “有否定性倾向” という三つの“倾向”のある例を挙げながら、その他の正反疑問文と同じ意味的特徴を持ち、明らかな傾きがない

* SOU Taiwa お茶の水女子大学外国語教育センター専任講師

いと述べている。

ここまで概観して分かったことは、これらの先行研究は“是不是+NP”疑問文がその他の「正反疑問文」と同一視されていることである。これらに対し、本稿は、まず“是不是+NP”構文によって示される「肯定判断への傾き」「否定判断への傾き」「中立型」といった意味的特徴の割合を調べ、“是不是+NP”疑問文も、その他の「正反疑問文」と異なる意味的特徴があることを示す。それによって、この構文における中心的な意味は何なのかを考察し、その他の正反疑問文と同一視し、文の意味を規定するのが適切であるかについて再検討を行う。

1.2 “是不是+VP”の問題提起

“是不是+VP”の形式については、以下のようなものであると考えられる。

- (1) 是不是他昨天来过？
- (2) 他是不是昨天来过？
- (3) 他昨天是不是来过？
- (4) 他昨天来过，是不是？

林裕文 1985 は、“是不是”疑問文について、(4) のような場合は、“是不是”の位置が変わっただけで、(1)、(2)、(3) と同じものだと指摘している。一方、邵敬敏 (1996) は、(4) は (5)、(6) と同じ「追加疑問文」(“附加问”) として扱うべきだと指摘している。その理由は、(1) ~ (3) は、“前三例的‘是不是’确为有疑问而问”で、(4) は、“就某件事实征求对方看法”であるからだと言及している。

- (5) 你不能干，对不对？
- (6) 你今天不要去明天去，好不好？

しかし、邵敬敏・朱彦 (2002) は、(7) (8) を“是不是+VP”の例として挙げ、「追加疑問文」については特に言及しなかった。

- (7) 黄胖子官厅儿管不了的事，我管！官厅儿能管的事呀，我不便多嘴！（问大家）是不是？（老舍《茶馆》）
- (8) “而且我觉得面容娇好倒在次要，身段好才更有女人味。你身段就很不错，很成熟，很丰满，是不是司马灵？”
- “是。”（王朔『痴人』）

宇都健夫 2003 は、「文成分型」と「追加型」に分け、(1) ~ (3) を「文成分型」とし、(4) (7) (8) を「追加型」としている。そして、それぞれの構文は意味上及び統語上では異なるレベルに属すると論じ、前者は「命題が真であることの確認」、後者は「命題が真であるという話し手の判断そのものが妥当であることの確認」と指摘している。本稿は、この二つの確認を区別することに基本的に賛同する。しかし、これには三つの問題点がある。一つ目は、(9) のような例をどのように解釈したらいいいのかということである¹⁾。(9) は、いわゆる文成分型に属するが、明らかに「命題が真であることの確認」ではない。

- (9) 柳原笑道：“我看你从今以后是不是预备待我好一点。”流苏道：“我待你好一点（略）你又何尝放在心上？”（张爱玲《倾城之恋》）

二つ目は、文末に用いる“是不是”と独立に用いる“是不是”が同じ意味を表す場合があり、逆に、独立に用いる“是不是”が、文末や文中と同じ意味を表す場合も実際にあるということである。つまり、単なる文の構造から文の意味を規定するのは難しい。三つ目は、「文成分型」は命題目当てで、「追加型」は聞き手目当てという宇都健夫 2003 の指摘に対しても疑問を感じる。聞き手に確認を求めるといった言語行為はまさに聞き手目当てではないであろうか。また“你是不是不想去？”というような聞き手の判断を尋ねる問いかけは、聞き手目当てだと考えるのが自然だと思われる。本稿では、どのような場合が聞き手目当ての表現であり、どのような場合において聞き手目当ての表現ではないのかについても、再検討したいと思う。

2. “是不是+ NP / VP” 疑問文の統語分布

本稿は、約 900 万字の現代中国小説²⁾ から 1539 条の“是不是”の例を収集した。その中から 300 例（叙述文を除く）を採り、分析の対象として考察を行った。この 300 例から“是不是+ NP”と“是不是+ VP”の使用状況を見ると、前者は 18 例があり、6%を占め、後者は 282 例があり、94%を占めている。この結果から“是不是+ VP”の使用が圧倒的に多いことが分かった。その理由を考えると、VP は NP よりバラエティーに富んでいることに因るのではないと思われる。

文頭、文中、文末、単独³⁾として用いる割合については、図 1 に示すように、文頭に用いられることが最も多く、54.3%（163 例）を占めている。その次に多いのは、文中に用いる場合で、21.3%（64 例）を占め、文末には 12.7%（38 例）、単独に使用する割合は 11.7%（35 例）を占めている。

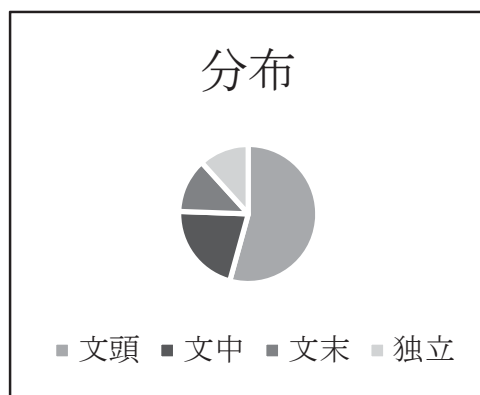


図 1

この統計から明確になったのは、文頭に用いられる場合が多く、その次は文中で、文末と単独に用いる割合はあまり変わらないということである。

3. “是不是 + NP” 疑問文の諸相

前述した従来の研究では、“是不是 + NP” 疑問文は他の正反疑問文と同じだと指摘されているが、筆者はこの観点に疑問を持つ。本稿で収集した例を丹念に観察してゆくと、叙述文に用いる場合と疑問文として用いる場合があることがわかる。叙述文に用いる場合は、「～であるかどうか」の意味を表すので、これは考察対象から外す。疑問文として用いる場合、“是不是 + NP” 疑問文は 300 例のうち 18 例しかなく、非常に少ない。更にもその 18 例をみると、以下のような三つのタイプがあることが分かった。

3.1 肯定への傾き

「肯定への傾き」とは、話し手の命題内容についての判断が肯定へと傾いていることを指す。“是不是”によって表している「肯定への傾き」はモダリティの部分であり、話し手の推測と聞き手への確認の両方を兼ねていると考えられる。つまり、話し手は推量を差し出しながら、聞き手に確認を求める。これは明らかに“你喝不喝咖啡?”のような、単なる確認を表す正反疑問文とは異なる。“是不是 + NP” 疑問文の 18 例のうち、「肯定への傾き」を表すものは 9 例あり、全体の 5 割を占めており、三つのタイプの中でもっとも高い割合を占めている。この言語事実から「肯定への傾き」は“是不是 + NP” 疑問文の最もプロトタイプ的な使い方であることが言える。例を見てみる。

- (10) 桑九妹忙不迭地打开盒子，只看了一眼，就赶紧把揉在一旁的捆扎绳拿过来：“别动别动！照原样绑起来，赶紧去换！”桑妈妈一小步一小步挪过来：“买的时候怎么也不挑挑仔细，这么贵的东西！”妹夫抱着膀子走过来凑下身去看了看，说：“是不是处理品？你们图便宜？”桑平原奇怪地一把抖落开衣服，三下五除二披挂停当，把所有的钮扣系好，原地转了个圈：“怎么了？这

不是挺好的？”（毕淑敏『转』）

(10) において、“是不是处理品？”に続くことばの“你们图便宜？”を見ると、話し手が「その箱の中のものが訳あり商品ではないか」と疑い、肯定の判断への傾きを表していることが分かる。

(11) “当我是一位医学生的时候，我的老师告诉我，对每一位经你亲手解剖的尸体，都要先向他行鞠躬礼。”焦如海郑重解释。

“请问老师的老师，是不是位日本人？”翟高社抢先问。

“正是。”焦如海毫不迟疑地回答。

翟高社为自己的推测被证实感到得意。（《毕淑敏文选》）

(11) は、“翟高社为自己的推测被证实感到得意”からも分かるように、話し手は「先生の先生は日本人じゃないか」と推測していた。ただし、それは確定できないので“是不是”を用い、聞き手に確認を求めている。

(12) (13) も話し手の推測があり、聞き手に確認を行う表現である。

(12) “总不能比这里再坏些。”“不信你去试试。”

“喂，辛姊，别逗着玩了！你听谁说的？是不是陈先生呢？”

“不是。姨妈家的二哥和三妹来信说的。”（《锻炼》）

(13) “老奶奶，您这儿有个姓常的吗？”

“姓常……”她偏过耳朵，干哑着嗓子说，“是姓常吗？没有。”

“这不是河口道三十六号吗？他说住在这儿呀！姓常，叫常鸣。”

“没有，没有。我在这儿住了四十年了，从来没有过姓常的。是不是姓藏？姓藏的那家十年前也搬走了呵：没有。你准是把地名弄错了。”（《冯骥才文选》）

“处理品”（例 10），“日本人”（例 11），“陈先生”（例 12），“姓藏”（例 13）といった NP の部分は、話し手から提供している情報であり、それは話し手が推測している部分である。つまり、単なる確認を行うのではなく、(12) (13) のような聞き手に情報を提供しながら同時に確認を行っている場合もある。これは情報提供を行わない“你喝不喝咖啡？”のよう

な正反疑問文とは質的に異なる。

話し手の推測を示しながら聞き手に確認を求めるという言語表現を、モダリティの視点から見ると、命題の真偽に対する話し手の推測を表すのは対事的モダリティであり、聞き手に確認を求めるといふ問いかけは対人的なモダリティである。筆者は、「肯定への傾き」を表す“是不是 + NP”疑問文について、その“是不是”の部分によって表されるモダリティは、対事的なモダリティであり、かつ、対人的なモダリティでもあると考える。つまり命題内容の真偽についての推測と聞き手目当ての問いかけの両方があると考えている。

3.2 中立型

“是不是 + NP”疑問文において、話し手による命題内容への肯定または否定への傾きがなく、中立的な使い方もある。本稿で収集した 18 例のうち、5 例が相当し、27.8% を占めている。これらは“是不是 + NP”疑問文の典型的な用法ではないが、一般的な正反疑問文と同じ一面を持っているのも事実である。

(14) 我说：“不用谦虚，收一个徒弟吧。”

他说：“谁啊？是不是个漂亮的女孩？”

我说：“是个忧郁的女孩，名叫杜鹃。（《毕淑敏文选》）

(15) “毕大夫，电话。”（中略）手术室护士喊。她依旧缓缓地脱她的手套。没有什么能让一个有经验的外科医生焦急、里面的那副手套不能用了。（中略）她懒懒地问：“是不是我们家？如果不是，就说我手术还没完，谁的电话也不接。”做完一场大手术，就像干了一天活的长工，筋骨欲散。“不是你们家的电话，是个女的，…”（毕淑敏 《预约财富》）

(14) (15) において、“是不是 + NP”疑問文に傾きがあるかどうかの判断は、文脈に頼るしかない。かなり長い前後の文脈を見ないと、中立

的な疑問文であるかどうかの判断がしにくい場合がある。この点からも、中立型の“是不是+ NP”疑問文は有標的な使い方だと思われる。この中立型の“是不是+ NP”疑問文はその他の正反疑問文と同じ意味的特徴を持ち、話し手は命題内容に対し、真か偽か分からず聞き手に情報提供を求めている。使用状況から見ると、このような中立型の“是不是+ NP”は3割に満たない。従って、正反疑問文と同じ用法があるからといってその他の正反疑問文と同一視するのは妥当ではないと思われる。

3.3 否定への傾き

「否定への傾き」とは、ある命題内容に対して、話し手が否定的な価値判断を下す場合を指す。言い換えれば、話し手は“是不是+ NP”を用い、あるマイナス評価を表す。こういう例は300例の内、4例しかなかった。しかし、“是不是+ NP”の例からみると、22.2%を占めているので、決して特殊な使い方ではないと言える。

(16) 胖姑娘气冲地说，“你也不是东西，我这么喊，你都不进来，你还是不是男子汉？”（王朔《玩的就是心跳》）

(17) 牟林森说：我们他妈还是不是男人？（池莉《让梦穿越你的心》）

(18) 工兵说：“回你饭桌去！把那个馒头放碗里留着下顿吃！锄禾日当午，你懂不懂，拿大白馒头喂狗，你还是不是人民子弟兵，来自老百姓？亏你们做得出来！”（毕淑敏文选《最后一支西地兰》）

(19) 金祥：“住口住口！你给我住口！”

金祥：“你还是不是人？你还有没有一点人的良心？我九十岁的奶奶，为了你他妈的吃上绿色食品，一年四季辛辛苦苦地养鸡，一个一个地攒下鸡蛋。（略）”（池莉《云破处》）

(16)～(18)は、“你不是（真）男子汉”“我们不是（真）男人”“你不（像）人民子弟兵”といった意味を表し、また(19)は、“你不是人”と

いう意味を表す罵りことばになる。(16) ~ (19) は、どれも聞き手に確認を求めている。つまり答えを求めている。話し手自身の不満や怒りといったマイナスの心的態度を表す表現である。このような使い方があるのは“是不是 + NP” 疑問文のみであり、“是不是 + VP” 疑問文の例からは見当たらなかった。これは反語の語気を表す“还”の働きもあれば、属性を表す“NP”の働きもあることに由来すると思われる。この構造に入ることができる“NP”は非常に限られ、生産性の低い表現形式である。例えば、“你还是不是领导?” の場合は、普通の疑問文として解読されるのが一般的で、マイナス評価の意味を表すには文脈を必要とする。

また、聞き手目当てであるかどうかの視点から見ると、(16) ~ (19) は、聞き手に返答を求めているものの、聞き手が本来持つべき認識 (例えば、(18) は“人民子弟兵”である認識) を喚起させようとしているので、やはり聞き手目当ての発話と言える。

4. “是不是 + VP” 疑問文の諸相

先行研究では、“是不是 + VP” 疑問文は、その他の正反疑問文とは違うものであり、同一視すべきではないという点についてはほぼ一致している。邵敬敏・朱彦 2002 は、肯定への傾きを持つ“是不是 + VP” 構文は 92% を占めるという調査結果を示した。本稿で収集した 282 例に関して言えば、すべてが「傾き」を持つ文であった⁴⁾。更に、用例を仔細に検討してゆくと、確認を表す文において、事実についての確認を行う場合と聞き手の認識への確認を行う場合の 2 つのパターンがあることが見えてくる。前者は文末や文中に用いるときが多く、後者は文末あるいは独立型 (いわゆる「追加疑問文」) として用いる場合が多い。また、確認だけでなく、提案や話し手の自問を表す場合にも“是不是 + VP” を用いている。それぞれの使用分布を統計すると、確認は 88.8%、提案は 5.6%、

自問は5.6%となっている。

先行研究では、焦点の視点から“是不是”の移動について論じていたが、移動前と移動後の意味的变化についての議論は管見の限り見当たらない。“是不是”が移動できるかどうか、移動したら意味的にどのような変化を生じるのか、下記の4.1節で具体的に検証する。

4.1 「聞き手依存型」の確認表現及び“是不是”の移動について

“是不是 + VP”疑問文の例を見ると、話し手による命題内容についての推測から聞き手への確認要求という使い方が際立って多い。話し手は命題内容について、ある有力候補を提示し、それについての情報が欠如しているため、聞き手に確認を行い、返答を求めるのである。

(20) 爸爸说：“是不是跟邢志伟闹矛盾了？”

叶桑说：“谈不上矛盾。”

爸爸说：“那为什么突然跑回来？而且不听邢志伟的电话？”

(方方《暗示》)

(21) 他实在忍不住了，劈头抓住一个护士，黑黑的手指深深地掐进了护士的白工作衣。“你说，说我婆姨怎啦？她是不是已经不在人世了？你说啊！”小护士被刚才唐糕米的情形吓得够呛，也没敢计较老汉的粗鲁。只是揉着胳膊说：“她的瘤子太难做了，象一个章鱼耙得那么紧。(略)”(毕淑敏《预约财富》)

(20) は、突然、実家に帰ってきた娘に「旦那と喧嘩でもしたか」と尋ねる。情報は明らかに聞き手側にある。こういう場合は“是不是”を文末に移動して、“跟邢志伟闹矛盾了是不是？”に替えると、違和感がある。では、どのような場合なら文末に移動することができるのか。恐らく、次の(20a)のような一度普通の疑問文で尋ね、再度“是不是”を用いて追加で聞く場合なら移動できる。(20b) は、話し手の確信度が低い場合は使いにくい。

(20a) 跟邢志伟闹矛盾了？是不是？

(20b) ?? 跟邢志伟闹矛盾了，是不是？

(21) は、妻の手術の結果を知りたくて看護師に尋ねる場面である。“她已经不在人世了”の発話は、話し手の勝手な推測に過ぎず、何の根拠もない。情報は完全に聞き手側にあり、“是不是”を文頭に置かなければならない。“她已经不在人世了是不是？”が言える場合は、話し手は“她已经不在人世了”を事実として捉え、念のための確認をするときに限る。つまり、聞き手側に有力な情報がある場合は、“是不是”が文頭に置かれる。一方、話し手に何らかの情報があり、つまり命題内容に対し確信度が比較的高い場合は、“是不是”を文末に用いることができる。

(22) 而他冷冷地回答了她一句英语。她的脸倏地红了。我虽然不懂英语，也知道他说的肯定是一句伤人的话。(略)我低声问“表弟”：“你用英语骂她是不是？”他说：“我总不能当着你们的面，用国语骂她吧？”“你骂她什么？”“我当然不会骂她太难听的话。”(《表弟》)

(23) “我俩在一个组里，又搞同一项工作，总比较近些……”“每年入冬时，他家的炉子不是你给安上的？前两个月，他哥哥病了，你还借过他二十块钱。是不是？”贾大直目不转睛地瞧着他说。赵昌见他对自己同吴仲义的关系了解如此详细而略感惊异。(略)“是啊，他找我借钱，我怎好不借。(略)”(《冯骥才文选》)

(22) は、波線の部分からも分かるように、話し手は情報の一部(“他冷冷地回答了她一句英语”)を持っている。話し手の推測は“他用英语骂她了”で、これに関してはかなり確信度が高い。(23) の場合も同様で、文脈から話し手の“你还借过他二十块钱”という発話に対する確信度が高いことが分かる。このように、話し手の命題内容に対する確信度が高い場合は、“是不是”が文末に用いられている。これは収集した例文を観察し、得た結論である。

(22)' 你是不是用英语骂她了？

(23)' 你是不是还借过他二十块？

(22) (23) のような場合において、“是不是”を文頭に移動することもできるが、(22)' (23)' のように文頭に置かれるとニュアンスが変わり、確信度が下がるような発話となる。

4.2 共通認識の喚起を促す「聞き手誘導型」

「聞き手誘導型」は、話し手が聞き手の認識を想定し、そう認めるように誘導したり、あるいは自分の考えを聞き手に提示したりする場合を指す。聞き手の認識を誘導する場合は、(20) ~ (23) のような事実についての確認と違って、聞き手が命題内容に対する情報を所有することを前提とした確認ではない。実例を観察すると、多くの場合は、話し手は聞き手に自分の考えを提示し、聞き手にも同じ認識を持つように求める。そして聞き手の認識を誘導する場合は、(24) のように、独立型の“是不是”のほか、文頭 (28)、文中 (26、27)、文末 (25) とともに“是不是”が現れている。

(24) “它是人间的奇迹。是不是？”老者指着高处的长城，用苍哑的声音感触万千地说：“它正是咱中华民族的象征，咱们的骄傲。(略)”(冯骥才《铺花的歧路》)

(25) “她也有个女儿，莱丝莉。(中略)在镇上的中学教书。很了不起是不是？”我点点头。(亦凡书库)

(26) 猫子说：“燕华，我的菜是不是做得呱呱叫？”
(池莉《冷也好热也好活着就好》)

(27) 我把窗户大开：“你从这儿跳下去。”我们又笑起来，笑得很厉害，我把窗户关好。“你说，陷进你死我活的感情中是不是特傻？”“是你叫我热情点的。”(王朔《浮出海面》)

(28) 我看她一眼，没理她。“特羡慕人家说离就能离了，是不是觉得

我特赖，没潘佑军老婆那么好说话？”“你知道个屁。潘佑军老婆早在外头有人了。”(王朔《过把瘾就死》)

(24) と (25) の“是不是”は前文に後続し、その前文は話し手の評価を表すものである。「万里の長城は人類の奇跡」「彼女の娘は中学校の先生をしていて、たいしたものだ」と、モノや人に対する評価を表している。話し手はこのような認識(評価)を聞き手にも賛同してほしいと思っている。(26) は、自分の作った料理がうまいと相手に認めさせるための発話である。(27) は、話し手は「愛のために死ぬとかというような考えや行動が馬鹿馬鹿しい」という考えを聞き手に提示し、賛同してほしい発話である。(28) は、話し手は、聞き手の考えはこうではないかと推測し、それを聞き手に確認する。こういった例は、前に挙げた「聞き手依存型の確認」と異なり、命題内容の真偽についての確認ではなく、話し手自身の認識を提示することによって、「共通認識の喚起」という語用的な機能を果たすものである。また (24) ~ (28) は、すべて聞き手目当ての発話であり、問いかけ性を持っている。更に、聞き手誘導型の“是不是”が、独立型、文頭、文中、文末で用いられているということは、位置によって意味や機能を分類するのは、妥当ではないことを物語っている。

4.3 語気の柔らかい「聞き手への提案型」

「聞き手への提案型」とは、聞き手にある行動をするように提案する場合を指す。この「聞き手への提案型」はこれまでのタイプと異なる。提案の用法については先行研究があり、邵敬敏・朱彦 2002、宇都健夫 2003 の研究では、提案を表す文について、命題内容に対して「肯定の傾き」があると指摘している。これらの指摘は本稿で示したい提案の用法に対する考えと若干異なっている。この「肯定の傾き」というのは話し手の判断のあり方であり、モダリティに属する。しかし「提案」というのは語用論のレベルに属する。提案を表す文は、意味的レベルで考えると、

遂行動詞を用いる遂行文である。すなわち、命題内容の真偽についての判断を行う文ではない。

(29) ~ (32) のような例は、提案を表す“是不是 + VP”疑問文であり、その他のものと区別すべきだと思われる。

(29) 沈三山被一口酸汤呛得说不出话来，半天才痛下决心般地说：“是不是送些给邻居？”(略)只得如此，总不能看着西红柿烂在地里。“这我早想到了！(略)”(亦凡公益图书馆《西红柿王》)

(30) “毕大夫，您的脸色特别不好，是不是休息一下……”助手是离她最近的人，最先发现了毕刀的虚弱，忙说。“不。我……能行……”毕刀喘了一口气，竭力控制住自由化的坍塌感。医生做一台手术，就像老艺人雕一根象牙，不到万不得已，是不能易手的。(毕淑敏《预约财富》)

(31) 我与老何说话了，这是我参加了三年工作的第一次，我说：“何老师，我们现在在一个小组了，大家应该随便一些是不是？”老何听我叫他“老师”，非常巴结地说：“是是。(略)”(池莉《霍乱之乱》)

(32) “一个不吃醋的女人，多少有点病态。”(略)柳原笑道：“我看你从今以后是不是预备待我好一点。”流苏道：“我待你好一点，坏一点，你又何尝放在心上？”(张爱玲《倾城之恋》)

提案を表す場合の“是不是”は、語用論的に婉曲な言い方となる。それは、やはり選択肢が聞き手に与えられているからである。後述するが、“吧”と比べるとよりその語気の柔らかさが分かる。

4.4 「問いかけ性」の強い連用形式

これまでに挙げた“是不是 + VP”の諸形式である「聞き手依存型」「聞き手誘導型」「聞き手提案型」の例では、話し手は聞き手に返答を求め、実際、聞き手が返答をしている。つまり、“是不是 + VP”疑問文は、聞

き手のことを強く意識し、「問いかけ性」の強い構文だと言える。その問いかけが強くなると、詰問に変わることがある。丁力 1999 では、“是不是可以用于威逼提问”と述べ、詰問の意味的特徴を持つと指摘している。確かに“你老实说”“究竟”“到底”といった言葉と共起する場合は、詰問の語気を帯びている。

(33) 你老实说，玻璃是不是你打碎的？

(34) 究竟（到底）是不是你干的？

また、“是不是”を連用する形によって、聞き手に強く情報を求める表現となり、一種の詰問になっていると考えられる。

(35) 没想到老汉突然急了，浑黄的眼泪迸出眼眶，像蜗牛一样爬在苍老的面“是不是我婆姨的病没得救了？您连这一点乡下的土产都不收我们的了？是不是您打定主意，要实习医生给我婆姨做手术了，不愿欠了我们的人情？是不是嫌我们的油也是脏的？（略）”老人哀痛万分。毕刀只得接了这瓶被攥得汗渍渍的香油。

（毕淑敏《预约财富》）

(36) “你说！是不是人家给你找了工作，你给人家答应条件就是和我断绝关系？你再说！你今天晚上跑到这里干啥来了？是不是所长叫你来做我的工作，让我跟她那个不要脸的儿子成亲哩？你说！你说！你说呀！”她发疯似地喊着，一步步逼近了他。

（《风雪腊梅》）

連用することにより、話し手の命題内容の真偽に対する確認を求める気持ちがより強く表現される。そして文脈によっては焦り(35)、怒り(36)、といった心的態度を表すことができる。

4.5 話し手の内言の場合

“是不是”疑問文において、聞き手を目当てにしない場合がある。それは話し手の内言（すなわち心の中で言う）の場合で、話し手は“是不是”

を用いて自分自身に問いかけている。収集した例を見ると、話し手の内言のときは“呢”と共起することが多い。“呢”については、多くの先行研究がある。木村・森中 1992 は、“呢”について「必ずしも聞き手の情報に依存することなく不確定情報文を発する際に用いることができるところに、*ma* とは異なった特徴をもつ」と述べ、さらに「*ne* の理解にとって何よりも重要なことは、この文末助詞が、本来的に聞き手目あての問いかけ表示ではなく、あくまでも叙述内容そのものに対する話し手自身の心的態度の表示である」と指摘している。このような意味的特徴を持つ“呢”と、同じく聞き手を目当てとしない“是不是”が共起するのは自然な結合と言えるであろう。下記の例は、いずれも話し手自身の心の中で考えたことで、“是不是”を用いることによって、話し手の命題内容の真偽に対し肯定の判断への傾きがあること、そして確信できないことを表している。

(37) 到现在才发现，和父母相聚的日子太少太少，自己独自漂泊的日子太多太多。心底那抹总也挥不去的孤独，那份落寞，那份软弱，那份悲哀，是不是因为自己离家太久，流浪得太久呢？每个白天和黑夜，是不是就是因为离家，因为脚下不踏实，才会分外漫长呢？（亦凡公益图书馆《爱你》）

(38) 最近，外边斗起当权派，斗得很厉害。（中略）现在，她在想：爸爸是不是也挨打了呢？他不该挨打，因为他和那个女教师不一样。（冯骥才《铺花的歧路》）

(39) 她刚在纸上写上“亲爱的康庄哥”几个字，就听见几声轻轻的敲门声。她的心立刻缩成了一团。她惊骇地想：是不是所长和她儿子又来了！或者仅仅是所长的儿子一个人来了？（《风雪腊梅》）

(37)～(39) からも見られるように、話し手の内言を表す場合において、“是不是”の位置は文頭に置かれ、文末や独立型として用いる例は見当たらなかった。上の3例は、“是不是”を文末に移動することができず、独

立型としての使用もできない。この事実からも、文末や独立型の“是不是”には話し手の内言を表す用法がない可能性が高い。すなわち、文末と独立型の“是不是”は、聞き手目当ての用法しかなかったということになる。

5. “吧”との比較

“吧”をめぐる先行研究は多くあり⁵⁾、その意味的特徴および語用論的機能が次第に明らかになってきている。しかし、まだ検討する余地が残っている。徐晶凝 2003 では、“吧”について“对命题内容作出推量, 并要求确认”と指摘している。「命题内容に対する推量であり、聞き手に対する確認を求める」というような指摘は、“是不是”疑問文に対しても同様に言える。つまりこのような視点からは“吧”構文と“是不是”疑問文を区別することができない。本章では、先行研究を踏まえながら二者の違いを再検討する。

5.1 確信度および語気

邵敬敏・朱彦 2002 では、“吧”と“是不是 + VP”疑問文の確信度における違いを指摘し、“吧”の方が確信度が高いと論じた。しかし、このような指摘は、妥当な一面を持つものの、該当しない場合がある。ここで、第4章で挙げた“是不是 + VP”構文の例をもう一度挙げ、該当しない例について考えてみたい。

(20) 是不是跟邢志伟闹矛盾了? (20)' 跟邢志伟闹矛盾了吧?

(21) 她是不是已经不在人世了? (21)' 她已经不在人世了吧?

(20)' と (21)' は、文脈抜きで見ると成立するが、第4章で引用したそれぞれの文脈から考えると不適切である。(20)' において、話し手は確信度が低い時は“吧”を用いることができない。(21)' は妻の手術状況を心配している場合であり、確信度の高い“吧”は当然使用できないのである。

確かに先行研究で示されたように“吧”の確信度は“是不是+VP”より高いと言える。話し手の命題内容に対する確信度が低い場合は、“是不是”が選択される。例えば、(40)のような例である。聞き手の心理を推測する場合、話し手にとって不確定な要素が多いと思われるので“是不是”を用い、もしそれを“吧”に置き換えると、違和感が生じる。

(40) 你对她挺了解嘛，是不是有什么想法？（亦凡『花儿谢了』）

(40)' ?? 你对她挺了解嘛，有什么想法吧？

しかし、すべての文脈においてこのような確信度の違いを感じることはできるとは限らない。例えば、(22) (23) を“吧”に置き換えても確信度が高くなるとは思われない。

(22) 你用英语骂她了是不是？

(22)' 你用英语骂她了吧？

(23) 你还借过他二十块钱。是不是？

(23)' 你还借过他二十块钱。对吧？

(22) (23) のような文脈において、二者の違いは確信度の違いではなく、聞き手に対する問いかけをより強く表現したいから“是不是”を使うのだと思われる。

次は、二者の語気の違いについて再検討する。邵敬敏 1996 では、“X 吧” 提问的口气要比 ‘X 不 X’ 和缓得多”と述べている。しかし 4.2.2 節で述べた「提案型」の“是不是”を“吧”に置き換えると、明らかに“吧”のほうが相手に自分の意志を押し付けている印象がある。理由は、“吧”は“是不是”と比べ聞き手に選択肢を与えていないからであろう。特に、目下の者が目上に言う場合は“是不是”を用いる方が適切だと思われる。(29) (30) の例をもう一度挙げて“吧”と比較してみる。

(29) “是不是送些给邻居？”

(29)' “送些给邻居吧？”

(30) “毕大夫，您的脸色特别不好，是不是休息一下……”

(30) “毕大夫，您的脸色特别不好，休息一下吧”

(30) は、助手が医者への提案である。手術をしている医者に少し休憩しないかと提案する場合は、“吧”に置き換えると、押しつけがましく感じ、助手の発話としては不適切となる。この事実から、一律に“吧”の語気は“是不是”より柔らかいという指摘は妥当ではないという一面を窺い知ることができる。赵春利・孙丽 2015 では、“在权位关系中，下属与领导商讨事情时经常会使用‘吧’字句，而领导对下属却很少使用”と述べている。確かに“吧”を用いた場合、用いていない場合より語気が柔らかい。しかし、(30) の例から分かるように、“吧”の方が相手に自分の意志を強く押し付けるような場合もある。

5.2 「提案」における二者の相違点

“吧”も“是不是”も同じく「提案」の語用的機能をもつが、使用する文脈が異なる。下記の(40)を(40)'に置き換えることはできなくもないが、若干違和感がある。それは主語が一人称だからだと考えられる。実際、“是不是”の例からは一人称が主語となる例が見当たらなかった。聞き手を目当てとする“是不是”は、やはり一人称には使いづらい表現と思われる。

(40) 我们逛完街去看电影吧。

(40)' 我们是不是逛完街去看电影？

一人称が含まれている提案を表す“吧”の例を“是不是”に置き換えると、文の語用的機能が変わり、確認要求表現となる。

(41) 主持聚会的一个同志高声对大家说：“让我们重新认识一下吧。”

(王朔《动物凶猛》)

(41)' 是不是让我们重新认识一下？

ある行為を行おうと提案する場合、話し手もその行為者である場合は、“吧”を用いると話し手の意思も含まれることになる。一方、“是不是”

を用いると提案と確認要求の意味を表すことになる。聞き手に「友だちになろう」と言う場合は、提案と意思を表すもので、(42)'より(42)のほうが自然な言い方となる。

(42) 我们交个朋友吧。

(42)' 我们是不是交个朋友？

更に、提案される行為が話し手に有利に働く場合、“吧”を用いると、願うようなニュアンスとなり、二者の違いがより明瞭となる。

(32) 柳原笑道：“我看你从今以后是不是预备待我好一点。”

(32)' 你将来待我好一点吧。

また、提案と言っても、話し手が選択肢を意識する場合としない場合がある。(33)のような選択肢を意識しない場合には“是不是”を用いることができない。(33)は、王朔の小説から収集した例である。

(33) a 你坐这儿吧。

b 你搁在这儿吧，我明天再洗。

c 上车吧，我带你们一段。

d 我取下一张她的自家楼前的单人照片，说：“这张送我吧。”

(33)は、遂行文で、語用論的な機能として提案または勧誘となる。このような場合では、“是不是”疑問文に置き換えることができない。“是不是”疑問文は、提案を表す場合において、異なる選択肢（例えば、(29)なら近所にあげないという選択肢）は背景として存在している。一方、(33)例からも分かるように、“吧”構文では、背景化された命題内容と異なる選択肢はあまり意識されない。例えば、“(33) a 你坐这儿吧。”において、違う場所に座るという選択肢は通常では意識されない。従って、“是不是”と“吧”は共に提案を表すことができるが、両者のニュアンスは異なり、互換性はあまりないと言える。使用分布から見ても、提案を表す“吧”の例は多かったが、“是不是”の例は極めて少なかった。

5.3 プロトタイプ視点から見る二者の差異

今回、“是不是”と“吧”の最も典型的な用法を調べるため、それぞれ300例を収集した。結果は、“是不是”において、300例中271例(90.3%)が疑問文として用いられ、一方、“吧”において、300例中、疑問文として用いられたのは48例(16%)しかなく、それ以外は叙述文であった。すなわち、疑問文としての使い方が、“是不是”構文のプロトタイプであるのに対し、“吧”構文ではプロトタイプな用法ではないことがわかった。二構文ともに、「当該命題を推測し、確認を求める」という意味的特徴を持っているが、実際の使用分布は同じではない。“是不是”の例を観察すると、“是不是”を用いて、相手の問いに答えることはできない。一方、“吧”はできるのである。

(43) 你觉得咱们这是爱情么?“应该算吧?我觉得算。”说完我看她一眼。(王朔《过把瘾就死》)

(44) “你说他真的会帮我么?”“会吧。”(王朔《动物凶猛》)

(43)は、聞き手に返答しながら確認を行っている。このような用法は、“是不是”にはない。4.2.1では、“是不是”は「共通認識の喚起」の語用論的な機能があることを示したが、(43)、(44)も一種の「共通認識の喚起」と言えよう。しかし“吧”とは異なり、“是不是”は答えとして用いることができない。すなわち、“是不是”によって行った確認は、「情報提供」(返答)として使用することができないのである。

また、“吧”を用いて確認を行うときの語気は、先に述べた遂行文を除いて“是不是”より柔らかい。それは、「問いかけ性」が“是不是”ほど強くないからだと思われる。

(45) a “你骗我吧?”她也笑,“你哪有十六岁?”(王朔《动物凶猛》)

b 你是不是骗我?

c 你骗我是不是?

bはaより確信度が低く、b、cはaより問いかけの語気が強い。aが

返答を求めているかどうかは不明瞭だと言える。

おわりに

本論では“是不是 + NP”疑問文について、三つのタイプがあることを提示した。その考察を通し言えることは、七割以上を占める「傾きのある」用法は無標であり、一方、三割未満を占める傾きのない「中立型」の用法はむしろ有標であるということである。筆者は、“是不是 + NP”疑問文も“是不是 + VP”疑問文と同じく、その他の正反疑問文と区別すべきだと考えている。

“是不是 + VP”疑問文については、いわゆる文成分型と独立型を単純に分けることができないことを分析した。そして“是不是”の位置によって、その意味的特徴や機能を分けることが妥当ではないという結論を導いた。先行研究では、“是不是 + VP”疑問文について92%の例は「肯定の傾き」を持つと指摘されていたが、本稿はむしろ全ての例で「肯定の傾き」を持ち、傾きのない例は見当たらなかった。また、ある事実について確認を行う場合は、話し手が聞き手に対する情報の依存度の強弱によって“是不是”の位置が異なる。聞き手への情報提供の依存度が高い場合は“是不是”を文頭に置き、逆に話し手の確信度が高い場合は文末に置くか独立型として用いる。

また、共通認識の喚起を表す「聞き手誘導型」の考察を通し、独立型、文頭、文中、文末のどの位置にも用いることができることから、位置によって意味や機能を分類することは妥当ではないという結論を導いた。

「聞き手への提案型」では、これまでの研究であまり注目されてこなかった“是不是”疑問文によって表される柔らかい語気の一面を提示することが出来たと思う。そのことにより、先行研究で指摘されている“是不是”で表される詰問の強い語気とは真逆の性質を同時に持ち合わせているこ

とが幾分、明瞭化したのではなかろうか。

更に「聞き手目当て」の有無については、話し手の内言に用いる場合以外、「聞き手依存型」、「聞き手誘導型」、「提案」といった場合において全てが聞き手目当てであることを論じた。話し手の内言に用いる用法についての考察は、従来の研究では言及されていないところである。

最後に“吧”との比較を行い、両者による確信度の違いや語気の違いについての従来の論を再検討し、先行研究に不適切な部分があることを指摘し、今後、明確にすべき問題点を示すことができたのではないかと思う。紙幅の関係で、今回は日本語との比較ができなかったが、それは今後の課題とする。

注

- 1) 宇都健夫 2003 では、説明があったが納得しがたいものであった。
- 2) 百度から収集した王朔の小説及び亦凡公益图书馆から収集した現代小説である。亦凡公益图书馆からの小説は主に以下である。
《方方文选》《李国文文选》《梁晓声文选》《刘绍棠文选》《路遥文选》《刘醒龙文选》
《贾平凹文选》《池莉文选》《钱钟书文选》《苏童文选》《毕淑敏文选》
- 3) 文頭に用いられる例において、(2) のような主語の後ろに用いられたのも含まれ、単独に用いる場合は“～，你说是不是？”“～，是不是小李？”のような場合も含まれる。
- 4) 叙述文を除く。
- 5) 朱德熙 1982 では、“吧”を“吧₁”と“吧₂”に分け、本稿の考察対象はその“吧₁”に当たる。

主な参考文献

- 林裕文 1985. 「谈疑问句」, 《中国语文》1985 年第 2 期
陶炼 1998. 「“是不是”问句说略」, 《中国语文》1998 年第 2 期 (105-107)
丁力 1999. 「从问句系统看是不是问句」, 《中国语文》1999 年第 6 期 (415-420)
邵敬敏 1996. 《现代汉语疑问句研究》 华东师范大学出版社

- 邵敬敏朱彦2002.「“是不是VP”问句的肯定性倾向及其类型学意义」,《世界汉语教学》
2002年第3期(23-36)
- 徐晶凝2003.「语气助词“吧”的情态解释」,《北京大学学报(哲社版)》第4期(143-148)
- 赵春利 孙丽2015.「句末助词“吧”的分布验证与语义提取」,《中国语文》2015年第2
期(121-131)
- 朱德熙1982.《语法讲义》北京 商务印书馆
- 安達太郎 1999.『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版
- 宇都健夫 2003.「“是不是”を用いた「確認性疑問形式」」,『東京大学中国語中国文
学研究室紀要』第6号(1-23)
- 木村英樹・森山卓郎 1992.「聞き手情報配慮と文末形式—日中両語を対照して—」,
『日本語と中国語の対照研究論文集』(下)大河内康憲 編集 くろしお出版
- 宮崎和人 2005.『現代日本語の疑問表現—疑いと確認要求—』ひつじ書房